



笹小だより 8・9月号

令和5年8月28日
横浜市立笹野台小学校

夏休みが終わって

校長 佐々木 和美

長い夏休みが終わり、子どもたちが学校に戻ってきました。それぞれの子どもたちが夏休みの出来事について口々に伝えてくれます。一人ひとりの子どもは、他の友達とは違った夏休みの体験や経験を重ねています。どこかに出かけたとか、おいしいものを食べたとか、遠い所に住んでいる人と会ったとか普段と違った出来事もそうですが、長い夏休みの間、キッズに通って友達との交流を深めたり、サッカーや野球などのチームに所属し切磋琢磨したりした経験も子どもたちの心身により影響を与えることになります。たまにですが、本心かあるいは何か伝えたいことが他にあるのか「楽しくない夏休みだった。」という気になる発言をする子どもがいます。その時は「そんなことなかったでしょう」と否定することなく「なぜ楽しくなかったのか、どうしたかったのか、ならば自分はどうすればよかったのか」と質問し自己を振り返らせるようにしています。それは子どものよりよい成長には大事なことです。なぜなら「楽しくなかった夏休みは誰かのせい」という他責ばかりを追求して、自分を顧みることをしなければ、結局は自分の幸せが他人任せ、他人に委ねることになるからです。自己決定、自己調整ができる子どもを育てるために、子どもに「トラブルはチャンス(トラちゃん)」を繰り返し伝えるようにしています。楽しいよい思い出は子どもに豊かな情緒を育みますが、うまくいかない経験だって、そこには次に生かすための多くのヒントが隠されているのです。

さて、今年度も7月29日(土)に本校の6年生が笹野台連合自治会の皆様のご協力をいただき「笹野台神輿祭り、盆踊り大会」に出店することができました。各学級2店舗ずつ計6店舗の企画から運営までを子どもたちが行いました。総合的な学習の時間を用いて、友達と話し合いながらよりよいお店になるようにと試行錯誤しながら進めていきました。自分たちがよければよいという考えではなく、子どもたちにはお店を訪れるお客さんのことを考える相手意識がありました。小さい子から大人まで幅広い年代の考えや行動を想定するからこそ、ゲームのルールや賞品等を考えたり場の設定をしたりする際に具体的な対応策を取ることができました。

笹野台地域の皆様の温かいご支援を受け、子どもたちは貴重な体験をすることができました。横浜の教育が目指す人づくり「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」をより一層進めるために、今後も笹野台地域の皆様との繋がりを大切にしていきたいと思います。

保護者の皆様へ

○ 一人ひとりの子どもたちにより一層寄り添っていくために、児童支援専任に加え副児童支援専任を次のように設置いたします。ご承知おきください。

副児童支援専任 畠山 綾芽 養護教諭

○ 本校ではネットトラブル等防止について、子どもたちに指導を続けています。5・6年生対象に旭警察の方にお越しいただき特別授業も行っています。保護者の方がお越しの際にもお伝えしておりますが、今後も子どもたちのよりよい育ちのために、《ホームページ→学校からのお知らせ》をご参照いただき、学校と家庭で連携して取り組んでいきたいと思っています。

○ 本校の電話は2回線あります。ご利用ください。【 362-0450 362-3988 】